◉ 人間科学部 心理・行動科学科３ゼミ合同の課外活動

神戸大学海事科学部の「深江丸」で船舶実習に参加

未知の体験から、見識を深める

神戸大学海事科学部 練習船「深江丸」

昨年10月7日、人間科学部 心理・行動科学科の3ゼミが合同し、神戸大学海事科学部の練習船「深江丸」に乗船する船舶実習を行った。当実習は2014年度から毎年実施されており、6回目となった昨年度は、4年生3人、3年生20人の計23人が参加。私達の日常生活と海事との関連や、船を動かす際の船員間のコミュニケーション方法等を体験的に学習した。学生を引率した矢野円郁准教授に、実習の目的や意義について話を聞いた。

●人間科学部 心理・行動科学科
矢野 円郁 准教授

――実施の経緯をお聞かせください。

私は２０１１年度まで中京大学心理学部応用心理学領域で助教をしていました。当学部では応用心理学実習として船舶研修を実施しており、私も引率教員の一人として「深江丸」に乗船していたため、神戸大学海事科学部の教職員の方達と交流があったのです。２０１３年度より本学に着任したことから、海事科学部の先生が連絡をくださり、女学院でも利用の機会をいただきました。

――「深江丸」は、どのような役割を担う船なのですか？

主に外国航路の海運会社で活躍する海技者――つまり、船長や機関長等として船上で働いたり、その技術を基に陸上でも働いたりする人を養成するための学部が所有する練習船です。

――心理・行動科学科で船舶実習をする目的や意義とは？

学生に、普段できない経験をする機会を与え、見識を深めることが狙いです。船を動かす際の船員同士のコミュニケーション方法や生じうるヒューマンエラー、海上における空間認知や交通安全など、心理学的にも興味深い話を聞くことができるため、研究テーマの発見にも繋がるでしょう。

毎年3人程度、スタッフとして海事科学部の学生が乗船してくれるのですが、圧倒的に男性が多い分野とはいえ、女子学生が乗船することもあり、本学学生があまり知らない分野で活躍する女性を知る機会にもなっています。

――当日の実習内容は？

出港から入港までは約3時間。海事科学部の港から六甲アイランド付近まで行って戻る間に、座学と体験学習を行います。

座学では、船の種類をはじめ、船員の海上勤務の実態、輸出入品の99％が海上輸送であり、日本の生活が海運によって支えられていることの解説や、航海図の見方、船の現在地を認識する方法、海上の交通安全などの話を伺います。

船橋操舵室で船員から説明を受ける学生たち

体験学習では、船橋において船長が各部署にどのような指令を出し、船員がどのように応じて船を動かしているのかを観察すると共に、実際に操縦も行います。車とは異なり、方向転換を始めてから実際に方向が変わるまでに時間がかかることなどを体感できます。また、機関室に入り、船が動く仕組みや安全に作業する際の注意点なども教わります。

――これから参加するゼミ生に伝えたいことは？

天候に左右される実習ですが、毎年10月頃に実施しており、晴れると気持ちのよい航海が楽しめます。この実習は、客として観光船に乗るのとは異なる体験ができる貴重な機会。これまで船に興味がなかった人にとっても、楽しく有意義な時間になっていますので、ぜひ体験してください。

参加した学生の声

一つの船を動かすのに、たくさんの人が関わっていることが分かりました。

海での現在地の把握の仕方から、海上の仕事の流れまで、様々な話を聞くことができ、とても刺激的な時間でした。

フェリーや遊覧船に乗ったことはありましたが、このような形で乗船したことはなかったので、新鮮で面白かったです。エンジンルームでの発電の説明から、冷却水なのに温度が高く、発電の熱が大きいことを実感できました。たくさん質問させていただきましたが、もっと聞きたかったです。

船は何よりも物資の移動に貢献しており、日本の食生活には船での貿易が必要不可欠なのだと学びました。4月から就職しますが、知らない様々な仕事に改めて興味を持ちました。

船での距離や方向の見方を知り、自分が思っているのと実際とでは異なるということを体感しました。また、舵を取るのが難しく、車の運転とは全然違うこともわかりました。エンジンがある場所は、熱くて音がとても大きいことも実感しました。

港に様々な企業や工場がある意義などを教わり、就職活動をするなかで、様々な職種や業種を知るという段階に来ていたので、ためになりました。